

授業科目名	解剖学(中枢神経学)	担当教員	教授 藤谷 昌司 准教授 横田 茂文 他
開講年次・学期	2年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	講義 16時間・実習 12時間
授業概要			
<p>筋・骨格・末梢神経学、発生学、内臓学、人体解剖学に引き続き中枢神経学の講義・実習を行う。</p> <p>講義では、機能を説明する神経生理学の講義が平行して授業が行われ、構造と機能、そして臨床的に重要な事項をむすびつけて、3次的に脳や髄膜、血管の構造、神経回路の広がりを理解する。</p> <p>講義と平行で行う実習では、講義で学んだ脳の構造についてより確実なものにする。これまでの人体解剖学と違って肉眼的に確認できない内容が多い。脳、脊髄を水平断、冠状断、矢状断で撮影したMRI(CT)画像は、CBT、国家試験、日常臨床でよく眼にすることになるが、実際の脳を見てその構造物を自ら同定する機会は最初で最後であろう。</p> <p>なお、実習で使用させていただく脳はご遺体である。人体解剖学実習と同様に感謝の念を持って解剖する。</p>			
GIO(一般目標)			
<p>今後に学ぶ薬理学、平行して行う生理学、臨床専門科目の脳神経外科学、神経内科学、精神医学、整形外科学、放射線医学、眼科学、耳鼻咽喉科学などの基盤となるものである。脳・脊髄の構成を立体的および全体的に把握するとともに、その構成要素のつながりを機能そして臨床的に重要な事項と関連づけて理解する。</p> <p>昨年度より、active learningの一環として系統解剖学実習と同様(全ての班ではない)、presentationを時間内に3回行うことを必須としている。班内コミュニケーションが重要で、ビデオ係、説明係等、役割分担などの取り決めの準備を含め、チームワークを高めることが重要である。</p>			
SBO(行動目標)			
<p>以下のコアカリキュラム記載の項目を説明・概説できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系(と末梢神経系)の構成・脳の血管支配と血液脳関門 ・髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環 ・脊髄の構造、機能局在と伝導路 ・脳幹の構造と伝導路 ・脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能 ・大脳皮質の機能局在(運動野・感覚野・言語野) ・辺縁系の構成 ・錐体路・小脳の構造と機能 ・大脳基底核(線条体、淡蒼球、黒質)の線維結合 ・痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路 ・視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路 ・交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質 ・視床下部の構造 			
成績評価の方法			
<p>講義について、実習についての筆記試験を同日で行う。上記目標の到達度により評価する。</p> <p>実習の欠席は原則的に認めない。Moodle上の小テストも評価、出席確認等に用いる場合がある。</p>			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
<p>レジメは全てpdfファイルでMoodleを介して配布する予定</p> <p>「カラー図解 神経解剖学講義ノート」寺島俊雄 金芳堂 電子ブックあり</p> <p>「マーティンカラー神経解剖学」野村嶺 第4版</p> <p>「寺田・藤田(著)解剖実習の手びき」(改訂11版)南山堂</p> <p>「プロメテウス 解剖学アトラス 頭頸部神経解剖」第3版 医学書院</p> <p>「ハインズ神経解剖学アトラス」第5版 佐藤二美 訳 MEDSI</p> <p>「病気がみえる「脳・神経」」(みやすい3次元図)</p> <p>「Human Anatomy Atlas」アプリ Visible Body社</p>			
コア・カリとの関連			
<p>D-2 神経系</p> <p>D-13 眼・視覚系</p> <p>D-14 耳鼻・咽喉・口腔系</p>			